

問 2-10 これまでに受けた治療

No.	問 2-10 これまでに受けた治療	
1	肝 癌 に 対 する 治 療	ラジオ波
2		ラジオ波治療
3		肝庇護剤
4		カテーテル治療、エタノールを肝臓に注射
5		手術をした
6		ラジオ波で焼く、エタノールで固める
7		ラジオ波治療
8		冠動脈塞栓術のラジオ波焼照術
9		ラジオ波
10		肝細胞癌切除手術
11		ラジオ波、アルコール、結せん術
12		開腹手術、肝臓一部切除、同時に胆のう切除
13		肝動脈塞栓術、ラジオ波
14		ラジオ波
15		ラジオ波治療
16		電気で焼いた
17		ラジオ波
18		ラジオ波焼灼手術
19		カテーテル治療
20		瀉血
21	その他	タチオン
22		民間療法
23		食堂静脈瘤予防＝パリエット
24		アルブミン製剤
25		週 2、3 回の点滴（何かは不明）
26		ベザトール SR 錠
27		佐藤免疫療法、AHCC 服用
28		サプリメントなど
29		EMX 飲料水使用
30		牛の初乳
31		血清肝炎治療
32		鍼灸
33		グリチロン
34		AHCC、プロボリス、オアシスグリーン
35		瀉血
36		鍼灸
37		PSE（カテーテルによるオペ）
38		肝移植手術
39		瀉血
40		ケベラ S、リバレス注、タチオン注を併用
41		ニチファーゲン
42		瀉血
43		EPL、グリチロン
44		水、食事療法、気功

問 2-11 現在受けている治療

No.	問 2-11 現在受けている治療
1	切除、焼く、凍らせる、塞栓
2	直接肝臓に針を刺し、エタノール薬を挿入
3	ラジオ波治療等
4	肝動脈塞栓術、ラジオ波
5	ラジオ波治療
6	カテーテル治療
7	瀉血
8	治験薬 MK-7009
9	民間療法
10	アンモニアの低下薬（ポルトラック原末）
11	食堂静脈瘤予防＝パリエット
12	アルブミン、グリテロン、マルファ液、アルダクトン、パリエット等服用
13	ベザトールSR錠、ニューロタン錠
14	ビタミン剤等の服用
15	テグレトール錠、ロキソニン錠
16	AHCC服用
17	グリチロン
18	AHCC、プロポリス、オアシスグリーン、オリゴノール
19	ウルデナシン
20	瀉血
21	タケブロンカプセル、ノルバスOD錠、ポリクル、デパ、EPLカプセル
22	インターフェロンに似た注射
23	EPL
24	ユベラ錠
25	肝移植

問 2-10-1・11-1 インターフェロン治療中に経験した副作用－その他

No.	問 2-10-1・11-1 インターフェロン治療中に経験した副作用－その他
1	吹き出物が顔に異常なほどできた
2	胸膜炎
3	吐き気
4	幻覚
5	口内炎、味覚障害、胃痛など
6	味覚が変わった、喉に痰がからんだ
7	不安、健忘、目・耳・口内の乾燥、爪の異常、目の違和感
8	咳
9	目がかすむ、体重減少
10	不眠、味覚異常、物忘れ、爪異常、筋力低下
11	咳
12	関節痛
13	のどの渇き
14	ひどい肩こり、首の痛み
15	アレルギーが発症
16	腹痛
17	下痢、吐き気
18	下痢、頻脈
19	鼻からの小出血
20	パニック障害、躁状態
21	下痢
22	めまい、息切れ
23	貧血、体重減少、眼底の腫れ、不眠
24	体重 13 kg減少
25	下痢
26	関節痛、表皮の痛み、咳の痛み
27	口の中がただれて、塩分が食べられない
28	全身に震え
29	幻覚、幻聴、ふらつき
30	味覚障害、乾麺神経麻痺、痙攣、足の紅斑結節
31	関節痛、雑穀神経痛、口内炎、歯肉炎、腹痛、下痢、嘔吐、口渇、不眠、味覚障害、動悸・息切れ、腰痛、鼻水、くしゃみ、目の痛み、手足の冷え、悪寒、咳、胸痛、アナフラキシー、血圧上昇
32	乾癬
33	吐き気、めまい
34	むくみ、足がつる
35	震えるような痛み（特に手足）
36	咳
37	じんま疹
38	発疹、動悸、めまい
39	口内炎
40	舌から胸にかけてヒリヒリ焼け付く感じがする
41	太陽の光がまぶしくて目が疲れた
42	便秘、下痢、吐き気
43	体重の激減
44	全身皮膚の痛み
45	吐き気
46	眠れない
47	胃痛、背中の関節痛
48	強度の貧血
49	思考力低下、記憶が消える
50	眼底出血
51	下痢、口渇、歯肉炎、立ちくらみ、注射部の腫れ、かゆみ等
52	下痢

No.	問 2-10-1・11-1 インターフェロン治療中に経験した副作用－その他
53	眼底出血
54	下痢
55	イライラする
56	全身の痛み、吐き気、味覚障害、貧血、便秘、口内炎、目の乾燥、鼻の乾燥、呼吸困難
57	吐き気
58	口内炎
59	肩こり、腰痛
60	歯肉炎、舌の荒れ、味覚不良
61	思考力・記憶力の低下、耳鳴り、皮膚が薄くなったようで少し熱いものを持つと、すぐに水疱になるようになった
62	口内炎、血糖値が下がった
63	眼圧が上がった
64	関節リウマチ
65	鼻腔の乾燥、荒れ、舌のしびれ、味覚異常、のどの痛み
66	腎臓機能の低下、吐き気、脱水症状
67	関節痛
68	白血球が極端に減った
69	眼底出血
70	過度の睡眠
71	関節痛、アトピー
72	嘔吐
73	貧血
74	I型糖尿病
75	自律神経失調症
76	痰
77	精神状態が異常
78	腹痛、下痢、嘔吐
79	口内炎
80	膀胱炎
81	局所にガングリオン形成
82	髪の毛が細くなった
83	貧血
84	下痢
85	咳が長く続いた
86	肺が白くなった
87	嘔吐
88	体重が7～10 kg減った
89	下痢、目が乾く
90	貧血、リウマチ
91	きついインフルエンザにかかったような状態
92	味覚障害
93	吐き気
94	体重 10 kg減
95	貧血がひどかった
96	やせた
97	嘔吐
98	脳出血
99	体重減少
100	貧血
101	吐き気
102	発疹、リンパ腺の腫れ、貧血
103	腹痛、下痢
104	下痢、注射部位の腫れ、手のしびれ
105	皮下出血、歯茎からの出血

No.	問 2-10-1・11-1 インターフェロン治療中に経験した副作用－その他
106	咳
107	下痢
108	胃痛
109	味覚障害、吐き気、口内炎、投与部位の炎症
110	味覚障害
111	不眠、口内炎、目の渇き、難聴、イライラ
112	集中力低下
113	不眠
114	白血球の低下
115	寒気
116	眼科に今でも通院
117	手のひび割れ、あかざれ、関節痛、リウマチみtainな足の重み、筋肉の痛み、味覚障害
118	めまい、不眠、腎炎、皮膚のただれ
119	吐き気
120	不眠
121	視力低下、耳鳴り、爪の変形・変色、ふらつき、腰痛
122	発疹
123	顔面麻痺、口角炎
124	味覚障害
125	味覚障害
126	下痢
127	ひどい下痢
128	咳、動悸、息切れ
129	肌荒れ、注射後が堅く、痛みがあった
130	味覚がわからない、便秘
131	吐き気
132	貧血
133	湿疹、口内炎、視力低下
134	吐き気

問 2-12 特別措置法における肝炎のステージ－その他

No.	問 2-12 特別措置法における肝炎のステージ－その他
1	無症候
2	キャリア
3	無症候性キャリア
4	無症候性キャリア
5	無症候性キャリア
6	無症候性キャリア
7	無症候性キャリア
8	無症候性キャリア
9	無症候性キャリア
10	キャリア
11	キャリア
12	無症候性キャリア
13	ウイルス検出されず
14	ウイルス検出限界以下
15	無症候性キャリア
16	無症候性キャリア
17	無症候性キャリア
18	2 から 1 への移行期
19	インターフェロン治療後、ウイルス (-)、経過観察中
20	無症候性キャリア
21	無症候性キャリア
22	キャリア
23	無症候性キャリア
24	無症候性キャリア
25	キャリア
26	キャリア
27	無症候性キャリア
28	無症候性キャリア
29	無症候性キャリア
30	キャリア
31	無症候性キャリア
32	無症候性キャリア
33	無症候性キャリア
34	無症候性キャリア
35	無症候性キャリア
36	無症候性キャリア
37	無症候性キャリア
38	キャリア
39	無症候性キャリア
40	キャリア
41	キャリア
42	キャリア
43	キャリア
44	無症候性キャリア
45	キャリア
46	無症候性キャリア
47	無症候性キャリア
48	キャリア
49	無症候性キャリア
50	無症候性キャリア
51	無症状
52	無症候性キャリア

問 2-15 診断確定当時から現在までの自己負担金額－その他

No.	問 2-15 診断確定当時から現在までの自己負担金額－その他
1	身体障害者のため無料
2	肝炎治療はしていない
3	生活保護
4	医療受給者証があるため無料です

問 2-17 現在の肝炎の症状－その他

No.	問 2-17 現在の肝炎の症状－その他
1	脱毛
2	じんましん
3	喉に痰がからむ
4	咳
5	脱毛
6	頭痛、肩こり
7	腹部が腫れる
8	むくみ（特に顔）
9	うつ
10	脱毛
11	咳の痛み、関節痛
12	筋肉痛、口内炎、脱毛
13	肩こり
14	発疹
15	足がつる
16	足がつる
17	背中の痛み
18	頬脈
19	集中力がない
20	舌痛症
21	めまい
22	咳
23	振戦
24	頭痛、めまい、胃痛
25	難聴
26	不眠
27	足がつる、足のむくみ
28	口内炎
29	頭痛
30	腰痛、肩こり
31	抜け毛
32	脱毛
33	皮膚のガサガサ
34	足がつる、むくむ
35	アトピー
36	筋肉がつる
37	不眠
38	足がつる
39	脱毛
40	髪がよく抜ける
41	耳鳴り
42	うつ病
43	めまい
44	やる気が出ない
45	抑鬱

No.	問 2-17 現在の肝炎の症状－その他
46	高血圧
47	不眠
48	不眠、うつ
49	眼科
50	手のひび割れ、味覚障害
51	下痢
52	動悸
53	脱毛、便秘

問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明－その他

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明－その他
1	ショックだった事は覚えているが、自分の身体がだるくても、気分がすぐれなくても、生まれたばかりの子を育てなければ、働かなければの方が先だった。
2	無知でよく分からない。
3	人に言えない。一人で隠しておかなければならないと思った。知られると、人が離れていくと思った。今でも、C型肝炎の事には触れないようにしている。
4	出産後だったので、昔の出産時に輸血した時に、感染したのでしょうと説明を受けたと思います。
5	無症候キャリアだったので、ピンとこなかった。
6	当時は輸血していたため、原因は献血して下さった方の中に、非A型非B型の方がいたのではないかとのことだったし、その説明で理解していた。
7	輸血が原因のような説明だった。
8	前置胎盤で、帝王切開で出血多量だが、母子を救うためには輸血が必要であり、その時はそのおかげで2人共助かったと思っている。医師には感謝している。
9	ウイルスが家族に感染しないように、世間にC型肝炎になったことを知られないように、あまり表へは出ませんでした。でも、経済的なことを考え、パートにも出ましたが、帰ってから、夕飯も作れないほど、疲れてしまうこともありました。いつウイルスが暴れ出すのか、常に死を考えていました。
10	血液製剤で感染したことを知ったのは最近のことで、輸血をしたから、それになったんだと思ってきました。
11	医師から説明を受けたというより、病名を知った時に、自分でどのような病気で今後はどうかを先に調べ、それを医師に確認した。フィブリノゲンの名前も、使用した事も知らされなかった。
12	初めて分かった時、●●医療センターからの知らせには呆れた。性生活が不純な人がかかる病気であると、エイズの時と同じで、国が悪いのに患者のせいにした。
13	心臓に人工弁（金属製）を入れているので、インターフェロンによる治療はできないと言われました。
14	止血剤が悪かったのを、早く知りたかった。どこへ不満を持っていけばいいのか分からないのは不安でした。薬害肝炎弁護団の方々に救済していただき、有り難うございました。
15	一般の人間にとって、医学用語ばかりで理解できず、どのような病気なのか、どうすればいいか、明確な説明を受けられず、不安をあおり立てるようだった。
16	大量の輸血をした時になる可能性が高いと言われ、出産直後から定期的に血液検査をしていたので、やっぱりかかったのかと思った。
17	予想外でした。
18	インターフェロンの治療がしにくい体です。他に良い治療法があればと思っています。
19	説明はなかったと思う。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・うつる病気だから、家族の内でも区別するように ・関係機関に報告すること ・生活の場では、常時消毒すること
21	看護師だったため、病気について十分理解していたので、絶望感を感じた。
22	輸血後肝炎だと言われた。血液製剤の使用は、当初言わなかった。
23	S63年1月の肝機能検査で、GOT1947、GPT1968、ALP4531、LDH3332、LAP3330で入院して、輸血後肝炎と言われ、次に非A非Bと言われ、次に慢性C型肝炎と言われて、2007年11月に医療機関から告知され、初めて薬害肝炎だったと知った。
24	我が子と面会はしていなかったけれど、かすかに残る産声と、我が命があることの喜びでいっぱいでした。
25	投薬に関する説明なし。対処の仕方が変わっていたと思います。感染があるような病気だったら、次の子供や家族にも、もっと気を使ってあげられたのに、残念です。
26	C型肝炎の治療方法は、当時特別な説明はなかった。肝機能は今回正常。ウイルス抗体陽性のため、定期的な経過観察は必要（3ヶ月毎）。外来受診、尿検査異常なし。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明ーその他
27	C型肝炎は、日常生活では感染しない病気だということを、世間の人々に教えてほしい。
28	心臓手術後、手術前に入院していた大学病院内科に転院しました。当時内科の主治医に、「なぜ私が非 A 非 B 型肝炎になったのか」、手術をした大学病院に聞いていただきましたが、返ってきた言葉は、「それは残念。しかし、心臓が助かったのだから」というようなものだったと聞かされました。原因が分からないまま、現実には肝数字が3ケタになっているのを下げる治療を受け（強力ミノファーゲン・タチオンを注射）、数字が安定したところで退院してしまいました。非 A 非 B 型肝炎が、この先どうなっていくのか、主治医から何の説明もありませんでした。
29	昭和 58 年当時は、医師に質問しても、はっきりした答えがなかったので、とても不安でした。
30	平成 21 年 2 月から、インターフェロン治療を 6 ヶ月しましたが、今はウイルスが検出されず、喜んでいますが、2 週間の入院で、退院後の薬の副作用が強く、やむを得ず、14 年勤めていた仕事を辞めました。
31	血液製剤のことは、医師からは直接聞いていない。カルテの開示を申し込み、それで判明した。
32	説明を受けた時は、輸血からかなと思った。
33	とても辛い思いです。考えると鬱になり、不安です。
34	非常に辛い状態で入院したので、その時は大変だと思いましたが、急性は治ると言われていたので、退院時、完全に治ったと理解していました。
35	原因は薬剤かもしれない。
36	この当時は何も分からなかった。
37	健康増進になればと、健保組合のカルチャーへ行って現状説明をすると、ロッカールームで着替えて、帰ってくると、玄関を出るまでついてきた。
38	出産時の輸血と判断していたと思います。
39	非 A 非 B と言われた時には、どんな質問をしても何の返答もなく、医師も何も知らないのだと認識した。ただ安静にするだけの治療法だったので、大した病気ではないと思った。
40	白血病治療中に、C型肝炎になったと言われたが、なぜなったのか分からなかった。
41	出産時に輸血した時、「輸血したから肝炎は覚悟して」と言われたので、産科の病院で肝炎になっていると言われた時は、輸血による肝炎だと思い、その後、内科に通っていた時も、肝炎の原因については考えず、病状や治療についてのみ考えていました。
42	私が憎むのは、出産時に何の説明もなく、陣痛促進剤を、点滴ではなく筋肉注射して出血多量にし、その後の処置も手間取り、自分の手に負えなくなってしまった医師である。生まれてそれまで健康な体で、病気など何一つしたことがなく、活動的であった私が肝炎になり、長期入院や通院等苦痛を伴い、生活が一転してしまったことが悲しい。
43	病院側では、10 数年前から感染を知っていたのに、患者本人に告知しないことに、怒りを感じた。
44	術後 20～30 年後に、がんになりやすいと言われた。
45	医師から、性生活で感染すると言われました。
46	当時、医師の説明に、血液製剤のことはありませんでした。
47	誰にも知られなくなかったです。救済の話が出なければ、夫にも言わなかった。早く死にたかった。肝炎検査は避けていたが、自分自身では C 型だろうと思っていた。
48	・ 医師から具体的な説明を受けたことがない ・ S60 年 10 月、産業医から「うつる病気（感染症）の患者が社内にいる」と職場内に広められた
49	早くて 20 年、遅くて 30 年で肝硬変やガンになって死ぬと理解（説明）した。
50	輸血での感染と言われた。血液製剤の話は一切なかった。
51	慢性にならないように、血液検査を定期的に行うこと。
52	非 A 非 B 型肝炎は、急性のうちに 3 ヶ月以内で治る人もいと告げられ、その話にだけ唯一希望を見出し、頑張ろうと思ったのですが、当時の自分が痛々しいです。
53	黄疸入院最初の時、医師より歩いてはダメ、ベッドに寝ていなさいと言われ、尿は尿瓶のため、便は 1 日 1 回だからベッドから起きて行きなさいと言われた。食事の器は消毒するから、そのままにしておけとのこと。新聞やテレビもダメ。ただ横になっていたことが、一番大変だったでしょうか。それが良かったとは思いますが。
54	C型肝炎について、情報が（知識）あまりなかったもので、とにかく本を買って読んだ。
55	S63 年当時、2 つの総合病院に受診しましたが、病気についての説明はほとんどなく、当時新聞で目にしたインターフェロン治療の事を質問しても、ほとんど効果がないと言われてしまいました。肝庇護薬の投与と血液検査で、1 年間過ごしました。私自身も、日常生活の多忙さから、C型肝炎と判明するまで、あまり深刻に考えないようにしていたと思います。その後、次の子供を出産しましたが、前の出産後に肝炎になったと説明しても、医師もあまり気にしていなかったようです。C 型と診断されるのが怖くて、出産時に強い薬を使用したから、肝機能が下がったんだとか、自分で思い込もうとしていました。
56	C型肝炎のウイルスはいるが、ウイルスの数も少なく、弱いウイルスなので、心配しなくて良い。GOT、GPT も正常値。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明ーその他
57	肝炎と診断された時から、死は頭の中から離れたことはありません。いずれ肝がん。それが今日なのか明日なのかと、常に思っています。
58	出産直後に出血した時、産院の医師から家庭に連絡がなく、家族は、裁判にしたいとまで激怒しました。一夜が明けてから、家庭への連絡がありましたが、なぜ、出血時に連絡してくれなかったのかと思います。
59	S62年当時は、輸血による肝炎と説明を受け、「命を助けるためには仕方がない。命が助かっただけでも、いいと思いなさい」と言われた。
60	判明時は、血液製剤からの感染だとは知らなかった。
61	医師からフィブリノゲン使用の話はなく、20年間輸血のせいだと思っていた。
62	肝硬変になると言われました。
63	母子感染がほとんどないと聞いていましたが、第2子を出産するにあたって、かなり不安がありました。
64	このままいけば、5年後には死亡するかもしれないという医師の言葉に、不安と絶望感。疲労感のある体で病院通いと家事育児、仕事。本当に辛かった。
65	感染が判明した当時は、インターフェロン等の治療薬もなく、このまま進めば命に関わる恐ろしい病気だと理解した。血液製剤に関しての説明は、一切なかった。
66	まともな医師がいない。
67	最初は、輸血が原因だと思った。
68	私の1B型は治りづらいと言われ(インターフェロン)、ウイルスを抜くことが難しいと聞き、ショックを受け、更に母子感染していたらと不安になった。
69	医師からは病名だけで、詳しい説明は受けていない。当時は、それが当たり前だったと思う。
70	最初は急性肝炎なので、安静を心掛け、慢性へ移行しないようにして下さいと言われたため、治療法はないが、治る病気だと思っていました。
71	どの医師も、常に、血液製剤のために感染したのではないと言った。
72	なんで? やっぱり! どうしよう、などが頭を駆け巡り、考えがまとまらず、動けませんでした。それから、頭の中が真っ白になったことを、覚えています。
73	周りに肝炎患者がいなかったため、病名すら知らなかった。
74	第2子を出産して1ヶ月後に肝炎にかかり、1年半後に3人目を妊娠した時に、一応念のために病院へ、出産しても大丈夫か聞きに行った時、初めて非加熱血液製剤が使われた事を知りました。3人目の子は8ヶ月で早産。2時間後に亡くなった。
75	急性期には、医師より命の危険もあると言われて、3人の子供達も小さく、毎晩眠れないほど、これからの生活が不安でたまりませんでした。
76	出産時の出血多量の治療のせいかと思っていた。
77	初めて聞く病名であり、よく分かりませんでした。そのため、書店に行き、「C型肝炎」という本を買い、勉強しました。
78	国と製薬会社の重大責任であり、製薬会社も1人1人に謝罪するべきである。
79	出産時の輸血により、肝臓が悪くなった。とにかく、点滴をして、トイレ以外は絶対安静にするようにとの話だった。肝炎の詳しい説明はなかった。
80	自分の体の事より、生後1ヶ月の子供をおいて、入院治療は考えられず、上の子も2才を過ぎたばかりで、医師の説明もよく理解できない状態でした。
81	判明した時は、インターフェロン等の治療が一般に広まっていなかったため、年4回の肝機能検査を怠らず、GOT、GPTの数値が100を超えたら、治療に入りましようと言われた。
82	判明した時点で、血液製剤によるものと分らなかった。
83	症状があまりなかったもので、深くは考えていなかった。
84	感染した当時は、自分の事よりも、とにかく初めて出産した子供の事に必死でした。そして、育児の事、これからの治療、入院後の家族の事を考え、絶望の日々でした。
85	私の場合、出産の時の止血剤(フィブリノゲン)は、必要ではなかったと思っています。他に方法があったのではと思います。
86	血液製剤を投与された事を知らなかったが、出産直後に急性肝炎になったのは、出産時の何かによって、感染したに違いないと思った。
87	未だによく分からないので、はっきりとした説明は、してもらえなかった印象がある。
88	輸血が原因で肝炎になったと、原告になるまで思っていた。肝炎の事は一つ知らず、医師から病名を言われた時は、他の事は覚えていない。
89	その時は、1ヶ月程で治ると思っていた。
90	私が感染した時は、非A非B型と言われていた時で、治療法もなく、ただ進行を遅らせるように、強ミノ注射しているだけの時期があり、普通の生活ではうつらないと言われていたが、子供がいたので、うつさないようにと気遣って生活していました。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明—その他
91	肝炎を発病した時に、あまり説明がなかったので、自分自身も自分の病気の事を考えていなかった。やはり、病気に対してもう少し、説明がほしかったように思う。
92	入院は3週間ほどと言われていたので、それだけで治るような病気だろうと思った。とにかく安静にして、毎日点滴をしていたら良くなるのだろうと思った。原因に思い当たることがなかったので、うつる病気かと聞くと、非A非B型肝炎は未解明でうつらないとは思いますが、小さな子供は近づけない方が良いだろうと言われた。肝機能の数値が安定しなかったので、3ヶ月2週間の入院になってしまった。やっと退院できたが、5ヶ月後に肝数値が上がった時はショックだった。もしかしたら、この繰り返しで悪くなり、子供達の成長が見られないかもしれないと、死を自覚した。血液製剤の説明は、医師から受けなかった。
93	医師より、専門医でないので詳細な説明はできないと言われ、●●病院を紹介された。
94	初めて診ていただいた医師は、C型肝炎の事をよく分かっていないようで、777と数値が出たのですが、少ないのでたいした事はないですね、と言っていました。なので、私もたいした事ない病気なんだと思っていました。それから肝臓専門の先生に代わり、大変な病気だと知りました。
95	私は出産医院、入院病院、投薬を受けた医院とバラバラなので、当時(30年前)は、そのような会話はありません。注射を受けた医師からは、輸血をしましたかと質問されました。
96	家族や人に感染させないかと心配です。
97	出産して、1ヶ月後だったので、出産した病院を訴えようと思った。これから一生病気と闘っていかねばならないと思うと、自殺した方が楽になれると思った。
98	非A非Bとの説明を受けた時点では、重大な病気との認識はなかった(激症化のみ注意する)。C型との診断説明を受けて、重大さを知った。
99	当時(S62年7月)、40日間の点滴治療で、黄疸などの症状が良くなったため、年に1回の検査で様子を見るようにと言われ、治ったと思いこんでいた。ウィルスの説明はなかった。
100	感染した時には、C型肝炎についての知識が全くなかったので、何か他人事のように思っていました。
101	何が起こったのか分かりませんでした。
102	C型肝炎を告知された時は、すでに肝硬変と言われた。もっと分かった時に知らせてほしかった。家族に感染されないように気を使った。
103	C型肝炎がどんな病気かも知らなかったし、訳が分からなかった。当時は輸血もしたので、仕方ないのだと思っていた。ただ、このまま放っておくと、5年後には重い病気になると言われた。
104	その当時は、病院のせいでこんな病気になったのに、治療のための医療費は自分で負担すること、精神的苦痛など、とても理不尽に思っていた。
105	お産の時に感染したのではないかと聞いてみたが、「それはない」と言われた。
106	輸血により肝炎になったと説明され、数枚のパンフレットを渡され、「これを読んでおくように」と言われ、本なども出ているので、自分で調べなさいと言われました。このままでは5~20年の命ですと図を書いて、慢性肝炎→肝硬変→肝ガン→死と説明された。
107	治る病気だと思った。
108	血液製剤を使ってC型肝炎になったというのは、ここ1~2年で分かりましたので、医師は知りませんでした。
109	最初、急性肝炎で入院した時点では、普通の肝炎のように、1~2ヶ月で完治の病気だと思っていた。当時、医師からも詳しい説明はなく、毎日点滴と血液検査の繰り返しで、治ると信じていた。
110	●大で手術後、第3内科へ行き、GOT、GPTの数値を下げただけで、ウィルスは残ったまま。外科手術でフィブリン糊使用。
111	C型肝炎を初めて自分で確認した(知った)時、医師は何の説明もなく、事実だけを告げられた。自分では、たいしたことはないと思っていた。
112	感染した時は病名だけで、分かりませんでした。
113	最初に聞いた時は、あまり聞いたことがなかったので、たいしたことはないと思っていた。それから大分時間が経ってから、大変な事だと分かった。
114	C型肝炎ですと言われても、初めて聞く病名だったので、どのような病気なのか、理解できませんでした。
115	当時は、単なる肝機能障害と考えていたらしい。
116	出産時の輸血、点滴が多く、その後すぐ血清肝炎で入院し(4ヶ月位)、C型肝炎が判明した時は、当時の血液製剤薬害によると思われ、そして、その後の糖尿もそれに関連していると言われた。当時、私は30才前で、糖尿には早すぎるので、その影響は大きいと言われた。
117	父が医師だったため、父から説明を受けた。主治医からは詳しく聞いていない。
118	肝炎がこんなにも危険な病気とっていなかった。今さら逃げることもできず、二人三脚で一生付き合っていくものと覚悟しました。
119	輸血をしたための発病とは聞いたが、血液製剤が使われたことは、聞いていなかった。
120	肝炎数値が高いことで、以前何か大きな手術をしましたか?と聞かれ、出産時に止血、輸血をしたと報告。それでC型肝炎かな?と言われ、ただただびっくりするのみでした。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明—その他
121	別に説明はなかったが、病院を紹介して下さって（●●●●●●●●病院）、そこに通って検査を受けていました。いつも、ただ検査をしているだけという感じでした。
122	死の危険があり、主人、子供達に C 型肝炎の事を話した。
123	輸血による肝炎で、エイズでなくて良かった。
124	肝炎になった事が、何でなったのか分からなかった。
125	以前は不治の病だった結核も、現在は完治できるようになっているので、先生は治らないと言ったが、医学が進歩して、治るに違いないと思うようにした。
126	22 年前に発症し、5～6 年間肝機能数値が上下した頃は、精神的にしんどかったと思います。
127	年齢的に治療方法がない。日常生活に配慮を要する。
128	輸血もしていないのに、何故こんな病気になるのですかと聞いても、さあと首を傾けるだけでした。
129	最初に診断を受けた病院では、何ひとつ説明してもらえず、大した事はないと思っていたが、かかりつけの病院で説明を受け、ショックを受けた。最初の病院は有名な所なのに、ひどい対応だと思う。
130	他の人にうつさないように、注意する点を教わりました。婦人科の病気で手術を受けた時（48 才）に、C 型ウイルスにも色々あり、私のは日本人には極めてまれな型であり、インターフェロンの効果については、全く 0 に近いと聞きました。その時点では GOT、GPT は正常でしたので、ただ仕方のないことと思いました。
131	治療すればすぐに治ると思った。
132	出産の喜びもつかのま、地獄に突き落とされたような感じでした。悲しみと不安でいっぱいでした。
133	癌になる人もいるが、ならない人もいるし、今は大丈夫だから、定期的にチェックするだけで良い。
134	手術時、「いのち」の保証はないと言われたほど最悪の状態だったので、むしろ、輸血で助けてもらえたと思っていたので、回復後、献血を続けていた。
135	26 才という若い年代に、出産という喜ぶべき時に感染し、絶望と不安がすべてでした。
136	現在、医師より肝臓に腫瘍がある（3 つ、1.5cm 以下）と言われて、進行状況を見ることとなっています。診断は C 型慢性肝炎腫瘍となっていますが、よく理解ができません。教えて下さい。
137	なぜ私が C 型肝炎になったのかと、イライラがつのった。
138	医師の説明があまり分からない。
139	輸血のために起こった病気と思っていたので、持病がある上に、一つの病気は手術で良くしていただいたが、後に思わぬ病気にとりつかれた。無念の気持ちです。
140	S62 年の時には、医師もどこからの感染がよく分からないと言われた。
141	ショックを受けたことは確かです。
142	今でも毎日が怖い。
143	最初にかかった病院では、肝臓専門の先生でなかったのもあるが、簡単に、I 型肝炎になっていますと言っただけで、何の説明もなかったので、C 型肝炎というものが分からなかったが、今は病院も変わって、専門の先生についているので、理解することができた。
144	医師から短命だと聞かされたのが 30 才頃でしたので、長生きさせていただいていますので、肝炎については、仕方がないと思っています。
145	当時の生活の中で、人との関わり合いで、差別的な思いもしましたが、今はあまり感じられなく思います。
146	心配ですけど、これから先何もなかったらいいが、先生から、念のため 3 ヶ月に 1 回エコー検査するよう言われました。
147	肝がんになる可能性が高いと聞いていたので、その時には死があるのだと不安でした。
148	肝炎治療のために入院した病院は、出産した病院と親密な関係だったので、肝炎を発症したのは出産が原因ではなく、私自身の衛生管理に問題があったような説明の仕方だった。
149	肝炎感染が判明した時は、まだどこで感染したのか分からなかった。
150	非 A 非 B 型肝炎で、安静にしていればすぐに治ると思っていました。何年経っても完治すると思い、ありとあらゆる治療をして治したかったです。
151	私死ぬの？あと何年生きられるの？頭が真っ白になりました。主人や子供達にうつっていないだろうかと、心配になりました。
152	当時は、まだフィブリノゲンが原因で C 型肝炎になったとは、医師も分からなかったのでは？
153	今まで健康な体であると信じていたため、肝炎だと言われた時、何故自分がと思った。
154	本人の私より主人の方が、当時よりこの事を（C 型肝炎）心配していた。
155	インターフェロンの治療を一度したのですが、効き目がなかったので、あきらめていた。
156	C 型肝炎と言われ、そのうちインターフェロンとかいう話を聞かされ、もう治っていると聞かされるまでは、いつまで普通の生活ができるのかと毎日不安で、身のまわりの整理をしました。
157	当時は、輸血による感染であるという説明で理解した。
158	どうして肝炎に感染したのか、今回初めて知りました。当時、非 A 非 B 型肝炎であると医師から言われました。しかし、心臓が助けられたことで、肝臓の事はピンときませんでした。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明ーその他
159	知らずに一生懸命子育てをし、義父母の面倒をみていました。C型肝炎と分かってから、3ヶ月に1回の検診のみ。2年前肝臓科の先生に変わり、すぐにインターフェロンの治療に入りました。1ヶ月位寝たきり状態で、熱、痛み、意識不明になったりで、中断しました。10ヶ月後再治療に入り、現在続いています。
160	対策が後手だったように思う。
161	今後の人生における絶望感でいっぱい。
162	人生一生涯、自分を含め家族全員に苦勞をかけ、今現在も毎日の生活に困っている。
163	感染症でみんなに嫌がられる。
164	出産したばかりだったので、子供の事を考え、将来を悲観していました。
165	医師は、「命に関わりはない。献血ができなくなる程度」、「輸血の中にウィルスがいた」と説明。C型肝炎→慢性化→肝硬変→肝ガン→死だと理解していたので、かなり不満の残る説明であった。
166	インターフェロンが効かない型で、医師から気の毒と言われた。
167	平均年齢まで生きられないと、強いショックを受けた。
168	輸血による感染と説明を受けた。
169	症状が出ていないうちに、インターフェロン治療を受けた方がいいのかどうか……。副作用がでて、寝込んでしまうと困るのですが……。
170	判明した時は、何でなのかわかりませんでした。
171	家族に感染しないかと、色々な面で気を使うこと自体がイヤだ。
172	当時はパニックで、絶望的でした。理解するまで何度も説明を聞いていました。
173	インターフェロン治療があると知りましたが、その当日は高額だったため、諦めた。
174	肝炎→肝硬変→肝ガンになり死亡。大変な一生になると思った。
175	とてもショックでした。何が何だかわからなかった。
176	産院の先生から、「出血が多いので薬を使います。肝炎を起こすかもしれないけれど、大丈夫。うちで診ます」と言われました（出産時）。
177	出産後判明するまで、何か自分の中で、点滴した後の体調の変化に不信感があり、病院へ問い合わせをした。ずっと納得ができず、今までの思いがやっと納得のいく結果だった。
178	まだその当時は、急性肝炎のうちに完治すれば、慢性化しない可能性があると思い、ひたすら安静に努めていた。肝炎が発症した時は、まだ血液製剤が原因と思わなかった。
179	治療法がないから、一生付き合っていくかなきゃならないと、死の宣告を受けたのと同じ気持ちでした。
180	最初23年前、非A非B急性肝炎にかかった時は、数値が下がった時点で完治したと思っていた。医師も次の出産をしてもいいと言っていた。数年後C型肝炎キャリアと分かった時は、一生付き合っていく病気、何時悪化するかわからないと言われ、とてもショックでした。
181	医師からは、非A非B型肝炎で治療法がない、安静にすること、一生治らない、悪くなったら入退院の繰り返しになる、仕事も家事程度で、無理はしないようにと説明を受けた。病気になるまではとても元気で、パートの仕事もしていたし、子供達ともよく遊べた。何もかもできないと思った。「一生治らない」と言われたことに、ものすごくショックを受けた。
182	36才での出産だったので、出産で体が弱って肝炎にきたのかもしれないと言われたので、なるべく安静を保って養生すれば、おさまると思った。
183	覚えていないし、ただ、うつるので気を付けるよう指示された。
184	輸血をしたために、肝炎になったとの説明でした。
185	医師の説明の後、何で？ どうして？ と泣いた。肝炎＝ガン＝死が頭の中で駆けめぐり、当初は、自殺も考えるほどに辛かった。人にも話せず苦しかったです。
186	肝炎発症時はまだ血液製剤使用も知らず、慢性肝炎になるのは確率が高いのだと理解した。20年後に肝硬変、30年後に肝ガンになって死ぬのかと思うと、60才まで生きられるのかと不安に思った。
187	自分自身が医療者であるため、肝炎の知識があり、説明を受けなくても分かっていた。
188	肝炎→肝硬変→肝ガンへと進行していき、一方通行で死に至る病気である。感染症なので、気を付けるようにと指導された。各ステージはそれぞれ5年位で、寿命はおおよそ15年とのことだそう。
189	子供にうつらないか聞いた時、仕事（調理補助）に就く時などに、血液に注意するよう言われた。同じ病院内（産婦人科→内科）にまわされたが、感染原因を聞いても、不明と答えるだけでした。
190	麻薬や、ピアスをあけたことがあるかとの問があった。
191	10年後、肝硬変、肝ガンになって死んでしまうのではと、毎日思っていました。
192	運が悪かったと言われました。
193	輸血による感染であると言われた。
194	C型肝炎のパンフレットを見せられる。20～30年で肝硬変、肝ガンで死ぬという恐ろしい内容。
195	小学校4年生の時だったため、よく理解できなかった。
196	深く説明してもらえなかった。安静にすれば治ると思った。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明ーその他
197	判明した時は 10 才だったため、理解していなかったの、きちんと病気の事について知った 18 才の頃の気持ちで回答しました。
198	現在、最良の治療法があれば治療したい。
199	医師からの説明はなく、看護師より聞きました。後は自分で調べたりした。治療をしだして、ある程度の事を聞いた。
200	輸血時に医師から、「昔は B 型肝炎の心配があったが、今はないので大丈夫です」と説明を受けて安心していたのに、「肝炎です」と言われてショックだった。
201	結婚したばかりでの病気発覚だったので、夫側の家族に申し訳なく思い、病気を説明した上で、頭を下げました。その時の心境は、将来への不安しかありませんでした。
202	人間ドックを受け、再検査となり、CT により肝炎と気づき、現時点では治療しなくてもいいと、医師から言われた。
203	当時、周りに肝炎の人が誰もいなかったの、産後 1 ヶ月後急性肝炎で入院した。すぐに治療して帰れると思っていた。
204	手術した時の輸血によってもらったのだと思った。手術の後、そういう説明は受けなかったから。
205	ウィルス性 C 型肝炎とは言われましたが、原因についての説明はなく、ちんぷんかんぷんで、不思議な気持ちでした。
206	輸血をしたので、それによる肝炎だとだけ説明される。
207	産後入院してから現在までずっと、肝炎専門の医者に診察を受けていますが、なぜ私が C 型肝炎になったのか、全然教えてもらえなかったのが、今でもとてもショックです。15 年間輸血が原因だと思っていた。真実を先生は早くから知っていたと思うので、教えてもらいたかった。輸血に協力していただいた方々が、申し訳ないと心配して下さっていた。自分の血が悪かったのではないかと、申し訳ないと・・・。
208	肝炎に感染した原因が分からない状態で、ウィルスの数も多かったの、治療ができないと思った。
209	H18 年血液内科受診の時、慢性 C 型肝炎と初めて知らされるれたその時点で、原因は告げられず、私自身も「どうして？」とただあ然。H19 年 12 月医療機関より S63 年 1 月の外科手術でフィブリノゲン使用のため、検査を受けるよう案内が来たため、原因が分かった。
210	非 A 非 B と言われた時は、病気に対してほとんど理解しておらず、慢性化するかもという不安は少しありました。C 型肝炎と断定された時は、ウィルスと一生付き合っていくんだなと思いました。
211	お産をした病院で肝炎が見つかり、医師から、「あー、やっぱり肝臓が悪くなったね」と言われました。
212	医師から親が説明を受けていたが、直接にはなかった。
213	肝機能が上がっているの、内科を紹介された。
214	肝炎の病気は自分のできる限り調べ、理解するようにした。
215	止血目的に使用された薬品ということで、使わなければ大変な事になっていた可能性ありと理解した。
216	7 人兄弟で私だけなぜ肝炎になったんだろうと、不思議に思った病気のことが、だんだん理解できるようになり、完治するよう闘うしかないと考えた。最初は原因が分からなかった。
217	急性肝炎で入院し、症状があまり良くなかったの、説明の内容は、はっきり覚えていない。
218	感染判明時は原因が不明だったので、多分、自分は長く生きられないだろうと思った。
219	HIV 感染と異なり、C 型肝炎ウィルスの感染経路を特定することができないとのことでした。薬害 HIV 感染が問題になったため、検査をするように通知がありました。
220	感染判明後、20 年後には発病すると医師に言われ、現在に至っている。精神的被害が多い。
221	一生がとても苦痛であり不安。
222	出産時の多量出血のための輸血ではないが、血液成分の入った物を入れて止血しましたとだけの説明だったので、別に大したことはないと思った。
223	肝性脳症にまで至り、親族が遠方から最期のお別れの（つもりで）面会に来てくれました。生まれたばかりの第 2 子の育児もできず、無念で泣いてばかりいました。
224	放っておくと、15 年、20 年で肝硬変、肝臓ガンへと進行するので、早いうちにしっかり治療しておかなければならない病気であると。
225	生後 7 ヶ月の手術後、本人は知的障害者なので、よく理解できてないと思う。
226	10 年後、肝硬変から肝臓ガンになります。インターフェロンという治療方法がありますが、40%の人しか完治しません。副作用も伴うし、高額です（80 万円？）。
227	薬が原因で感染したと思うと、本当にやりきれなかった。でも、その薬がなければ、今の自分はここにいないかもしれないとも思い、複雑だった。治療の副作用や、ちゃんと回復するのも心配だった。
228	ウィルスは検出されなかったの、問題ないと言われたが、再発の危険がないかなど不安である。
229	当初は、貧血による輸血のためだと説明され、当時の輸血検査に C 型がなかったためとされた。

No.	問 3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明－その他
230	医師、病院などからの説明はなかったが、輸血による肝炎問題が生じた時、バイパス手術の際に出血が多く、輸血による感染であったのだろうと思っていた。輸血量は 800cc。フィブリノゲン製剤、血液凝固第IX因子製剤等が使用されていたなど、まったく判らなかった。
231	インターフェロンの治療があると聞いたが、その時は実費で、かつ、必ず治るとは言えないとのこと躊躇した。
232	出産時の輸血が原因であろうと言われる。
233	肝炎という病気について、全く知識がなかったために、あまり気に留めていませんでした。
234	30～40 年後に肝硬変になる可能性があるという説明あり。
235	C 型肝炎ということだけで、それ以外の説明は何ら受けていない。
236	大量出血のため、輸血量がとても多かったし、新鮮血でもあったので、輸血時の感染とばかり思っていた。

問 3-3 肝炎治療や肝炎とのつきあい方に関する情報の入手先－その他

No.	問 3-3 肝炎治療や肝炎とのつきあい方に関する情報の入手先－その他
1	本
2	娘
3	薬害フォーラム、専門医師
4	主治医以外の医師
5	講演会等
6	子ども
7	親
8	講演会
9	講演会
10	家族から
11	漢方医
12	原告や弁護士団の会報等
13	親から
14	父・夫が医師です
15	仕事上、知識があった
16	看護師だった実母
17	市民公開講座
18	弁護士
19	子ども
20	市民公開講座
21	病院で行っていた講習会
22	講演会
23	母
24	仕事の仲間
25	妹
26	医療、C 肝研究会など
27	肝炎市民フォーラム
28	公民館などで開かれる会
29	パンフレット

問 3-4 日常生活上の不安－その他

No.	問 3-4 日常生活上の不安－その他
1	いつ再発するんだろうかという不安がいつもある
2	無理をすると悪化するのではないかと不安
3	子どもへの感染
4	これからどこまで悪くなるか
5	肝炎の症状が出るのが心配です
6	これからの体の具合について
7	今後のこと
8	疲労
9	外食、歯科治療
10	いつガンと言われるか
11	今後の健康、病気が進んだ場合
12	何でも頑張つて無理をすると、病気が悪化するのではないかと不安
13	近所の人に気付かれていないか不安
14	肝炎の進行を考えると、常に不安
15	子どもの結婚
16	2回目のインターフェロン治療により強い食物アレルギー症状が出て、食生活、体調管理に困っている
17	いつ肝がんに移行するか
18	再発
19	母子感染
20	息子の結婚と孫の出産など心配
21	将来について全般
22	再発しないか、肝がんにならなかと不安
23	睡眠剤がないと眠ることができない
24	急激な進行に対する不安
25	子どもへの感染
26	病院の進行
27	子どもへの差別
28	これからの体調
29	病気の進行
30	健康不安
31	年齢を重ねてからの再発
32	子どもが小さいので将来の不安
33	将来、肝硬変にならないか
34	今後の病気の進行、IFN 治療効果
35	病気の進み方
36	治療ができないこと
37	母子感染の有無
38	慢性肝炎であるという不安
39	今後の病状変化
40	病院へ行くとき、医師に嫌がられないか、他の患者さんに聞かれないか心配
41	病状の変化
42	治療がいつまでか、元気な時に戻れるのか
43	インフルエンザ感染
44	病気の進行状況
45	死への不安
46	今後の肝臓の状態
47	インターフェロン治療後の予後、再発
48	近い将来、更年期の頃が悪化しやすいと言われている
49	病気の進み方
50	再発
51	完治できるか不安
52	病気の進行について
53	病気の健康

No.	問 3-4 日常生活上の不安－その他
54	子どもが結婚する時に私の病気が妨げにならないか
55	インターフェロンすべきか否か、脱毛は仕事に支障がでるので不安
56	いつ活動しはじめるか
57	インターフェロン治療の副作用が不安
58	病気の今以上の悪化
59	再発
60	病気の再発
61	いつ肝がん、肝硬変になるか
62	死への恐怖
63	子どもの学校関係の人との付き合い
64	肝がんに移行した時の生活
65	再発
66	ガンになる不安が大きい
67	これから進行した場合の負担
68	いつ数値が上がるか心配

問 3-5 病気や家庭のことにに関して相談できる人、支えてくれた人－その他

No.	問 3-5 病気や家庭のことにに関して相談できる人、支えてくれた人－その他
1	患者会
2	同病者
3	同病の友人
4	入院中出会った同じ病気の人
5	元夫
6	保健婦
7	支援してくれた方々
8	彼氏
9	恋人
10	患者同士
11	祖母、恋人
12	学生の会等支援者

問 3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯－その他

No.	問 3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯－その他
1	特別措置法により、ネットで調べて
2	母子手帳に記載されていた
3	母子手帳
4	病院の関係者から電話があった
5	医療行為を行った病院
6	娘
7	分娩のとき血液製剤投与を確認した。ミドリ十字の点滴瓶だったので、看護師に何の点滴が聞いたところ、フィブリノゲンと言われた。その1ヶ月後に発病したため、血液製剤が原因だと思った
8	新聞の一覧で自分が手術をした病院が掲載されていた
9	医療機関の院長先生からの封書をもらい初めて知った
10	病院へカルテ請求し確認
11	418名のリストにあったから
12	以前の病院からの連絡
13	当時入院した病院から連絡があった
14	肝炎の原因となった病院より連絡があった
15	病院から連絡があった
16	入院した病院に問い合わせをしたらカルテがなく、製薬会社の窓口を紹介されて判明した
17	主治医からのアドバイスにより調べてもらった
18	厚労省による418リスト

No.	問3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯ーその他
19	肝炎の治療をした病院からの通知
20	肝炎の原因となった病院の医療機関からのエイズ検査依頼
21	病院のカルテ
22	インターネットで調べた
23	病院より電話
24	親
25	テレビや新聞などですが、私が疑いを持った時点では、まだ訴訟は起きていませんでした
26	●●●病院からの連絡
27	病院から
28	第2子を出産した時の母子手帳の記録
29	友人
30	病院からの投与の通知
31	出産した病院より通知
32	国の指示による検査時
33	主治医を変えたことで、報道されるより前に母子手帳に記入されていることを知りました
34	主人が薬の関係の仕事のため、少しは知識や情報があるので
35	自分で気付きドクターに聞いた
36	医師にカルテを調べさせた
37	ホームドクター
38	治療した病院に問い合わせた
39	母子手帳
40	企業から病院を通して告げられた
41	薬剤関係の仕事をしている友人の助言
42	当時の病院からカルテを取り寄せた
43	大学病院から電話で
44	手術した病院から連絡
45	友人より病院に確認した方がよいと言われて
46	母子手帳に記入されていた言葉と名前により
47	産婦人科医院の医師
48	病院に問い合わせ調べたら、カルテが残っていた
49	母子手帳に記入されていた
50	自分で病院に電話してカルテの開示を求めた
51	病院から連絡がきた
52	出産した病院のカルテ
53	姉より
54	親から告げられた
55	通っている病院の薬剤師
56	友人より
57	薬害肝炎訴訟報告と相談会に出席し、話を聞く
58	母子手帳への輸血の記載
59	肝炎の原因となった病院の薬剤師
60	エイズ検査
61	親から「これが原因ではないか」と言われ
62	病院からの通知
63	手術をしていただいた先生にききました
64	出産時の主治医
65	病院より書面で知らされた
66	肝炎患者の相談会に行った
67	友人から聞いて知った
68	母子手帳の記載
69	手術を受けた病院より連絡があった
70	●●●●病院の医師
71	肝炎患者会
72	出産時の記録を見て

No.	問3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯－その他
73	病院医事課よりカルテがありますと電話があった
74	418人リストに入っていた
75	病院に確認をした
76	急性肝炎になった時、医師よりフィブリノゲンを使ったと言われたのを記憶していた
77	病院から連絡がありました
78	入院した時のカルテを見てわかりました
79	母子手帳に記載されていた
80	416人のリストから
81	最初の病院より連絡をもらい、厚生労働省に問い合わせる
82	血液製剤使用時、医師より肝臓病になる恐れがあると告げられた
83	母が感染していたので
84	カルテ開示を請求し、カルテを見て知った
85	母子手帳
86	出産時に医師より説明を受けた
87	母子感染なので母から
88	産まれた病院からの連絡
89	産科の主治医からの通知によって
90	母の記憶と母子手帳
91	病院
92	後に手術をした病院に行って調べた
93	大学病院から通知書
94	手術をした病院の医事課の手紙
95	親より思い当たる節があると伝えられました
96	医療機関よりの案内
97	厚生労働省からの通知
98	母子手帳に記入あり
99	母子手帳に記入があった
100	産婦人科の先生に告げられました
101	家族の話から
102	病院より手紙がきた
103	病院からの通知
104	親から
105	病院より連絡があった
106	親
107	手術した病院に資料請求
108	薬害肝炎訴訟弁護団の方からの連絡
109	カルテの記載で
110	出産した病院
111	カルテを見て初めて知った
112	病院からの告知
113	病院からの連絡（事務室）があり、調査を行った

問 3-7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと—その他

No.	問 3-7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと—その他
1	生きるか死ぬかの出産だったので、仕方がないのではないのでしょうか。
2	自分は無症候キャリアなので、今のところ深刻には感じられない。不幸中の幸いだと思っている。しかし、重症な方もいるし、重大な問題だ。
3	陣痛促進剤と二重の薬害だと思った。
4	私は、急性前骨髄性白血病でした。出血を止めるための治療が必要だったので、その時は仕方なかったという思いと、別の病気になってしまったという複雑な思いがありました。
5	死の恐怖にさらされ 20 年。子供が成長した分、その年の年数だけ自分の命の不安が大きくなっていくことに、情けなさを感じて生きてきました。どうしてそんな血液製剤が使用されていたのか、また薬害事件なのかと。出産時に、自分の身体にウィルスが入っていたことがショックでした。
6	この薬により命を救われたという思いがあります。昭和 51 年の段階では、医療機関としてはやむを得なかったと思いますが・・・。国としての責任はあると思います。
7	硬膜下血腫血時の治療だったので、私にとってもその時は、痛いことも一切分からなかった。記憶や感覚は一切分からなかった。
8	その時は、自分は意識がなくなっていた時なので、もし血液製剤を使っていなければ、今の私はいませんでした。
9	命が助かった事に感謝しなければいけない。全ては運命と、長い間自分に言い聞かせて生活していた。フィブリノゲンが肝炎に汚染されていたとしても、止血剤として効果があったものと信じていた。アメリカで 1977 年に、有効性がないとして廃止されていたと知り驚いた。
10	国、都、病院関係者から、直に謝罪を受けたこともなく、一生を奪われた苦痛を、どこに向けていいのか分からない。金などいらないので、自分の人生を、経験するはずだったすべてを返してもらいたい。
11	複雑な思いのまま、すぐには結論が出せなかった。
12	国、製薬会社より死の宣告を受け、心身共に奈落の底へ突き落とされた。認可に携わった人達を恨み、殺してやりたい気持ちでいっぱいだった。
13	肝炎が血液製剤と知った平成 20 年 1 月も、現在の心臓内科に通院中でした。平成 6 年から現在の心臓内科で時々採血を受け、肝臓の数値が安定していると聞かされたものの、平成 8 年 4 月頃、医師が「HCV 陽性で軽度の肝機能障害あり」と言われたことをふと思い出し、頭の中が混乱しました。「採血上安定している」と言う医師の言葉と、何と言っても自覚症状がないにもかかわらず、体の中では少しずつ進行していると感じました。もしかしたら、大変な状況になるかも知れないと、時間の経過とともに強く感じました。
14	止血剤にウィルスが混入していた事実を知りながら、使い続けていた厚労省、製薬会社に怒りを持ち続けています。
15	私自身が弱くて、肝炎になってしまい、家族に申し訳ないと、20 年間ずっと思ってきました。又、義理の両親、義兄の家族にも、肩身の狭い思をしてきました。薬害と知った時、少しほっとしました。
16	後になって、これほど危険な血液製剤だと判明したが、私が手術を受けた当時は、それを使わなければ、死に至ったかも知れないので、それを考えると、とても複雑な思いです。
17	現場ではなく、国や厚労省に、製薬会社に対して怒りを感じました。
18	世界は中止していたにもかかわらず、日本は役人と製薬会社との癒着を強く感じた。
19	肝炎であることを知らずに、献血を年に一度していたことが辛い。
20	命を救うには、その方法しかなかった。医者は、当たり前前の行為をただけだと思った。他人事のように見ていたテレビの内容が、まさか自分にもあてはまっているかも知れないという驚き。何で騒いでいるのか、理解できていなかった。
21	フィブリノゲンが低下したため使用したので、仕方がないと思う。でも、C 型肝炎はいらなかった。
22	出産時に出血が止まらなくなってしまい、病院の先生方全員が集まって、あらゆる手段を尽くして下さいました。その時、あらゆる薬を使ったと言われ、それでも止血できずに手術されました。もし、血液製剤が肝炎の原因になると分かっていたとしても、その時お医者さんは、止血できるならその危険を冒してでも、まず止血しようとして、薬を使われたらと思う。ですから、お医者さんには全く恨みを感じていません。でも、そういう汚染された薬であることが分かっているながら、売り続けた製薬会社は、患者と医療関係者両方を裏切ったと思います。
23	輸血によって感染したと思っていたので、命を助けてもらったのだから、仕方がないと思っていたが、カルテによって、血液製剤が原因だったことが分かり、またショックを受けた。
24	結婚生活破綻の原因のひとつになっていると思います。
25	インターフェロンにより、ウィルスが消えています。現在は気持ちが落ち着いています。
26	38 才からずっと、人に知られてはいけない病気を背負って生きてきました。その間いろいろな健康食品を飲み、病院には行かなくなりました。医者に、冷たい仕打ちを受けました。ステビアを飲み始めて、かなりよくなりました。